

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2590100174
法人名	医療法人 和行会
事業所名	洛和グループホーム大津若葉台
所在地	〒520-0845滋賀県大津市若葉台30-25 (電話) 077-534-7840

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年6月23日	評価確定日	平成22年8月4日

【情報提供票より】(平成22年 4 月 24 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) () 円 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 17,00 円		

(4) 利用者の概要(4月 24日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	83 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	洛和音羽病院 金田病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは住宅街にあり、自然に囲まれ鳥のさえずりからも季節を感じる事ができる場所に立地しています。「思いやり、助け合い、笑いあい」を理念に掲げ、利用者と職員は共に暮らし、できるだけ多くの事を利用者にも携わってもらうことで、やりがいを持てるように支援し、支え合うことができています。地域との付き合いを深めたり、利用者本位のケアの充実など多くの課題を持ち、管理者及び職員はチームワーク良く前向きに1つずつ取り組んでいます。また、協力医との連携もよく、訪問看護による健康管理や体調不良時に往診に来てもらえることなど、利用者の安心した生活につながっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の結果を職員間で話し合い、地域交流について検討し地域の方々をホームの祭りに招待する等、できることから取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者が職員の意見を直接聞きながら作成しました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は家族や地域包括支援センター職員、ホームの職員等が参加し、2か月に1回開催されています。ホームでの行事や活動をはじめ、職員の交代やアンケートの結果を報告し、地域包括支援センター職員からアドバイスを頂いています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時や電話連絡、運営推進会議の際に直接家族の意見や要望を聞くように努めています。また年に2回アンケートを行い、集計結果を踏まえて話し合っています。アンケートの結果や出された意見や要望についての対応策等については、家族に報告しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	日々の散歩で挨拶を交わしています。自治会に加入し、地藏盆に参加したり、ホームの秋祭りに地域の方を招待して開催するなどの交流を持っています。今後、清掃活動や地域に向けた便りの発行など徐々に地域交流を深め、地域の方々の相談窓口としての役割も担っていきたくと考えています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のもと「思いやり、助け合い、笑いあい」をホームの理念として掲げられています。利用者と職員がそれぞれに支え合いながら暮らしていくことを思いとして理念に込められ、職員全員で作られました。	○	理念に込められている思いが、ホームの中だけではなく地域との支え合いや地域の中での暮らしを意識したものになるよう再度検討されてはいかがでしょうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念は玄関に、ホームの理念はリビングに掲示してあります。時折利用者から掲示してある理念について聞かれることがあったり、職員も利用者も常に意識しながら支援をしています。またカンファレンス時にケアを考える際に理念に立ち戻ることもあります。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日々の散歩で地域の方々と挨拶を交わしています。昨年は地藏盆に参加したり、ホームの秋祭りに地域の方を招待して開催するなどの交流を持ちました。自治会に加入していますが、具体的な活動には至っておらず、今後清掃活動や地域に向けた便りの発行など徐々に地域交流を深め、地域の方々の相談窓口としての役割も担っていきたく考えています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の結果を職員間で話し合い、地域交流について検討し地域の方々をホームの祭りに招待する等、できることから取り組んでいます。今回の自己評価は、管理者が職員の意見を直接聞きながら作成しました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族や地域包括支援センター職員、ホームの職員等が参加し、2か月に1回開催されています。ホームでの行事や活動をはじめ、職員の交代やアンケートの結果を報告し、地域包括支援センター職員からアドバイスを頂いています。民生委員や町会長等地域の方々に参加をお願いしたことはありますが、参加するに至っていません。	○	運営推進会議では、ホームがより地域に密着したサービスとなるよう地域の方々の参加が望まれます。行事や食事会、認知症の講演会と兼ねて行うなど、参加しやすい工夫や取り組みが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	集団指導や介護相談員の報告時に市の担当者と相談や情報交換する場があります。また、日頃の相談や報告は、ホームの管理者と連携を取りながら、法人の統括が行っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が少なくとも月に1度あり、来訪時に日頃の様子などを伝えていきます。また、毎月の様子を個別に手紙を書き、金銭管理の収支報告と一緒に郵送しています。管理者はその時々様子を電話でも伝えるように心がけています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話連絡、運営推進会議の際に直接家族の意見や要望を聞くように努めています。また年に2回アンケートを行い、集計結果を踏まえて話し合っています。アンケートの結果や出された意見や要望についての対応策を検討し、家族に報告しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は意見が言いやすく、やりがいを持ってケアに当たっており、離職もなく利用者や馴染みの関係が築かれています。また、異動があった場合にも利用者ごとにその対応を考え、ダメージの少ないように配慮しています。異動後も時折ホームに立ち寄ってもらえることもあり、良好な関係が継続されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に個々の職員の力量評価を行い、必要な研修を見極め参加できるように努めています。法人内の研修が充実しているだけでなく、ホームでも勉強会を行ったり外部研修の参加を勧めるなど、積極的に個々の職員のスキルアップを目指し取り組んでいます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近江のグループホーム協議会に参加しています。管理者と職員のそれぞれが参加できるよう、懇親会や研修会の企画があり、情報交換の場にもなる有意義な会となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族や本人からこれまでの生活歴や生活のリズムなどの情報を得ています。その情報をもとに入居後には、利用者のペースでの生活を心がけて支援し、多くの関わりと共に家族の協力を得て、自然に馴れていくことができるように配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念にも謳われている支え合う気持ちを大切に支援しています。利用者のできることに携わってもらい、知っていることを教えてもらいながら一緒に生活する中で、喜びだけではなく共に悲しんだり怒ったりすることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	法人の独自の入居時アセスメントとセンター方式を用いて、利用者の様々な情報を収集し、生活歴などから思いや意向について検討しています。日々の関わりの中から直接聞いたり、家族と相談しながら意向の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族に希望記入シートに記入してもらい、家族の希望や利用者の思いをもとにカンファレンスで様々な意見を出し合い、介護計画を作成しています。事前にかかりつけ医や看護師の意見を聞いています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居後、1か月、3か月、6か月に介護計画の見直しを行っています。見直しの際にはアセスメントの見直しを行い、評価しています。日々の記録は介護計画の実施を記入するようにしており、特記事項の記録も含めて介護計画が現状に即しているかの確認もでき、見直しに繋がっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望があれば今まで行っていた美容院や家族が行けない時の受診等に同行支援を行っています。また、おやつ等の買い物に個別対応を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけ医を継続できることも説明しています。かかりつけ医の往診を2週間に1回受けています。往診日以外でも体調不良の時には往診に来てもらえたり、週に1回の訪問看護を受け健康管理を行っています。また、24時間相談できる体制が整っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りの指針を説明し、同意を得ています。未だ看取りの経験はありませんが、重度化され看取りの段階になれば、医師や家族、看護師、ホーム職員が繰り返し話し合い、意思が統一され状況が整えばホームでも看取りまで支援できると考えています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として尊厳を大切に、丁寧な言葉かけを心がけています。生活を共にする中で意識せずに不適切な言葉遣いが見られた時には、その都度注意しています。また、個人情報保護についての研修を行い、その取り扱いには十分に注意を図り、鍵付きの書庫に保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画では利用者の1日の暮らし方について24時間ケアシートに記入し、個々に合った暮らし方を検討しています。利用者の意向を聞きながら1日の過ごし方を決めているが、職員の配置状況などから業務優先になることもあり、今後の課題と考えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2～3回は広告を見て食材を注文し、毎日冷蔵庫の中を見てメニューを決めています。個々の利用者のできることに携わってもらいながら、一緒に調理や後片付けを行っています。食事は職員も一緒にテーブルに着き同じものを食べ、楽しい食事の時間となっています。誕生日には好みのメニューにしたり個別で外食するなど楽しみの1つになっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後に入浴できるように準備し、利用者に声をかけ希望に合わせて入浴してもらっています。前日に入っていない利用者を優先していますが、毎日の入浴も可能で、人員のある時には午前中から入浴してもらうこともあり、状況に合わせてできるだけ希望に合わせて支援しています。菖蒲湯やゆず湯など季節を感じる入浴の支援もしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や現在できることとできないことを把握し、個々の利用者のやりたいことができるように支援しています。調理をしたりアコーディオンを弾いたり、百人一首の読み手をするなど、得意なことを行ってもらっています。更に利用者の力を発揮できる場を作ったり、ボランティアを利用し楽しみ事を増やしていきたいと考えています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の配置のある時には、個々の利用者の希望に沿って外出できるように努めています。散歩や買い物に出かける機会も少しずつ増やせるよう努力しています。行事や外食などで出かける機会を作ったり、出かけられない時にも玄関先のベンチでお茶の時間を楽しむこともあります。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関には鍵をかけず、玄関に鈴をつけて出入りがわかるようにしています。利用者の外に出かけたい様子が見られたら、その時に一緒に出かけられるよう支援しています。鍵をかけないケアについて職員は自然に理解し、支援しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2か月に1度防災訓練を行っています。年に1度は消防署の立会いのもと避難訓練を行い、夜間の対応や職員間の役割等の確認しています。地域の方々にもホームのことを知ってもらい協力を得ていきたいと考えていますが、働きかけを行うまでに至っていません。	○	地域の代表の運営推進会議への参加をお願いしたり、ホームの避難訓練に地域の方々にも声をかけるなど、協力を働き掛けることから始められることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事摂取量や必要な利用者の水分摂取量をチェックし記録に残しています。毎食の検食簿を記入し栄養バランスの良い食事作りを心がけています。管理者が検食簿を定期的にチェックしています。刻んだりほぐすなど個々に合わせた形状にして提供していますが、一度は元の状態で出してから刻んでいます。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれたホームは、鳥のさえずりからも季節を感じることができます。バリアフリーとなっており車いすや歩行器でも移動しやすく、リビングには天窓があり明るい空間となっています。畳のスペースや玄関横にソファを置き、少人数でも過ごせるよう配慮し配置しています。リビングの温度にも気を配り、動いている職員が感じる適温ではなく、利用者の感覚に近づけるよう努めています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持参してもらえよう家族に説明しています。自宅からタンスやいす、ベット等を持参し家族と相談し配置しています。居室に畳を敷き布団で休まれている方がいたり、自宅の居室を再現している方もいます。趣味のアコーディオンが置いてあったり写真を飾るなど安心するものが置かれています。		